

# 水産物の付加価値向上による地域経済の活性化を目指して —整備が進む厚岸漁港衛生管理対策施設—

北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所

厚岸漁港は、サンマ棒受け網漁業やイカ釣り漁業等の全国漁船に利用される流通拠点として、また、コンブ、カキ、アサリ等の沿岸・養殖漁業の生産拠点として、我が国の水産業を支える重要な役割を担っています。

しかしながら、市場機能を有する湖北地区の陸揚岸壁は、野天での作業を余儀なくされており、漁獲物への鳥糞・羽毛等の異物混入や日射等による鮮度・品質低下といった課題があります。また、岸壁幅員が狭く、市場周辺は多数の出荷車両と漁業関係者車両が輻輳し、危険かつ非効率な出荷作業を強いられています。

これらの課題を解決するため、市場機能を湖北地区から湖南地区第2埠頭に移転(図-1)することとして、水産物の準備～陸揚げ～荷さばき～出荷に係る一連の作業を高度な衛生管理体制のもとで取り扱い、鮮度保持や品質管理を図るとともに、漁業作業の効率化や就労環境改善に対応する施設として、屋根付き岸壁、人工地盤及び清浄海水導入施設を整備しています。

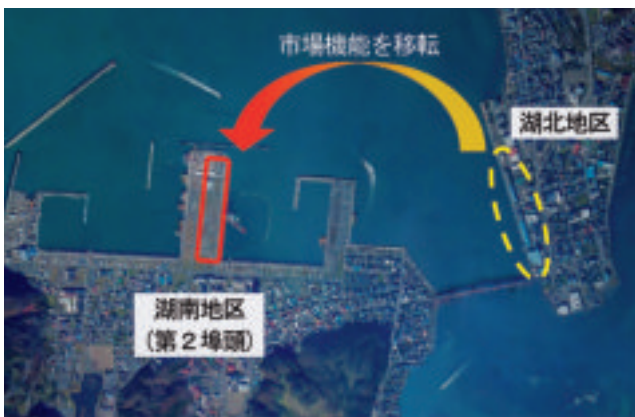


図-1 厚岸漁港全景

屋根付き岸壁は軒下高さ12m(人工地盤部は5.5m)、幅35m、延長403m(図-2)、清浄海水導入施設は原水、海水電解殺菌水、冷却殺菌海水の3系統を配置しています。

平成27年度に現地着工し、平成30年度末現在、人工地盤部(図-3)の延長95mを概成し、屋根付き岸壁の残延長308mについて、基礎杭や地中梁等の工事を実施中です。



図-2 屋根付き岸壁完成イメージ



図-3 概成した人工地盤部(1階部分は漁協の荷さばき所が整備され、2階部分は漁業関係者の駐車場として利用)

平成32年春の供用開始を目指し、鉄骨建込や屋根仕上げ等の営繕工事、清浄海水導入施設等の機械設備工事、受変電施設や照明等の電気設備工事のほか、岸壁の上部工や付属工、舗装等の土木工事を鋭意進めています。

一方、人工地盤部の1階部分は厚岸漁業協同組合が事業主体となり荷さばき所を、屋根付き岸壁に隣接した用地においては、厚岸町が事業主体となり船員休憩施設を整備するため、第2埠頭全域において多数の工事が実施されることから、相当程度、工事の輻輳が想定されます。

このため、各工事の発注者と受注者が連携して綿密な工程調整と安全管理を行い、工事を進めて参ります。



図-4 整備が進む衛生管理対策施設（厚岸漁港湖南地区第2埠頭）

## ■ 「小樽雪あかりの路」が手づくり郷土賞の大賞部門でグランプリを受賞

小樽市 産業港湾部 観光振興室

平成30年度「手づくり郷土賞(国土交通大臣表彰)」において、小樽雪あかりの路実行委員会が大賞部門のグランプリに選定されました。グランプリが平成28年度に創設されて以来、大賞部門、一般部門通じて北海道内から初めてのグランプリ受賞となりました。

### 「手づくり郷土賞」について

「手づくり郷土賞」は、国土交通省の主催により、地域特有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として積極的に利活用して、魅力ある地域づくりを行った団体に対して表彰するもので、昭和61年度に創設され、平成30年度で33回目の開催となります。「小樽雪あかりの路」は、平成16年度に一般部門で受賞し、今回は、過去に受賞した団体のうち、継続的・発展的に活動を行っている団体に対して表彰する「大賞部門」において、グランプリを受賞しました。

### 「小樽雪あかりの路」について

#### ●背景

小樽運河が昭和61年に現在の姿に整備されて以降、小樽市は日本有数の観光都市となり、国内外から多くの観光客が訪れていましたが、季節の変動が大きく、冬季には観光客が少ない状況でした。こうした中、運河や手宮線跡地などの小樽の歴史的遺産を活用して、小樽の冬の夜に新たな魅力を生み出すため、地域住民の力により、平成11年に「小樽雪あかりの路」は誕生し、今年で第21回目の開催となりました。

#### ●イベント概要

毎年2月に、「雪」と「ろうそくの灯り」のみで、歴史的建造物の立ち並ぶ古い街並みを照らし出す「小樽雪あかりの路」。期間中には、運河や手宮線跡地をはじめ、延べ12万本ものろうそくの灯りが小樽の夜を彩ります。ろうそくや運河に浮かべる浮き玉は小樽産のものを使用するなど、できるだけ地域資源を活用し「メイドインオタル」にこだわったイベントです。